東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010年1月22日

悪魔の約束は、欺瞞に過ぎない。

ムスリムの皆様。あらゆる機会を利用し、人の崇拝行為や良い行動を妨げるよう努力する悪魔は、人間に対して、こそこそした方法で影響力を与えようとしています。[1]人々はそれにたいして気づくことができません。彼らにとって執られた行動は、合理的で正当な理由からなされたものなのです。それは、クルアーンにおいて人々が自分たちの行いを美しく見え、立派だと思い込ませると説かれています。[2] また高壁章で次のように述べられています。『かれ（悪魔）とかれの一味は、あなたがたの見えない所からあなたがたを見ている』[3]しかしアッラーの良い僕たちは、心に起きる正悪の戦いが悪魔からのものであることを認識します。[4] 言い換えるならば、彼らは悪魔を見なくてもその囁きかけることを理解します。

兄弟姉妹の皆様。誰でも場合によっては悪魔の多角的な攻撃を受け、最終的に欲望に侵略されます。[5] このようにして罪には何の害もなく むしろ多数の利益を得て喜びを感じることができると信じ始めます。このような人は、虚偽を真理、誤りを正義、悪を善と見なし始めます。崇拝行為は、大変面倒なことで、人に疲れを与えるだけで無意味なことだと考え、そしてムスリムがまったく無駄に苦労していると思い込みます。またこの過程において人は、この世の喜びや楽しさをもう一度手にすることは出来ないと思い、したがって物事が禁じられているか許されているかを問わず、すべての機会を利用すべきだと信じ始めます。さらに悪魔は、手元に喜びや嬉しさがあるにもかかわらず、それを味わうことをせず、来世において約束されている恵みを求めることが、無駄な努力だと見せかけます。

ムスリムの皆様。悪魔の欺瞞の更なる手段は、アッラーは人間を無条件に許してくれるという信頼感を与えることです。[6] 悪魔はあたかも次のように語ります。「今楽しく過ごせ、まだ若いので崇拝する時間はたっぷりある。この世の楽しさを味わえ、そしてアッラーのお慈悲とお許しは無限である」

ムスリムがアッラーの御慈悲を御慈愛に信頼することはもちろんそうあるべき事柄です。しかしご存知のように、この状況は時には人間の目に全く異なるものとして示され、それによって罪を犯すことに何の支障もないのだと思うようになるのです。このやり方は、悪魔が迷わすことに苦労していた人々に対して試している効果的な方法です。

悪魔の囁きかけに対して、心や精神的な均衡をきちんと保つように努力しましょう。そうしないと、『それでわたしを非難してはならないのです。寧ろ自分自身を責めなさい』[7]という悪魔の無責任の主張と対面することになるということを何時も頭に置いておきましょう。

本日のホトバをこのことに関する節の訳によって終わえたいと思います。『あなたの（魅惑的な）声でかれらの中の出来る限りの者を動揺させ、あなたの騎兵や歩兵でかれらを攻撃しなさい。かれらの財産や子供つくりに協力し、うまそうな約束を結べ。」だが悪魔の約束は、欺瞞に過ぎない』[8]

[1]第 114 章 4 節.
[2]第 27 章 24 節.
[3]第 7 章 27 節.
[4]参照、第 7 章 201 節.
[5]第 58 章 19 節.
[6]第 35 章 5 節.
[7]第 14 章 22 節.
[8]第 17 章 64 節.